

2006

小学生の為の式典用の椅子

Elementary School Chair for Ceremony

AD12 金子 睦
指導教員 比留間 真

1. 研究目的

小学校の式典は内容こそ正式なものとなっているが椅子などの会場のものまで場の雰囲気に合っていない。今回の研究では小学生らしいデザインと使いやすさに特化した椅子を提案する。

2. 調査と分析

調査は小学校に行き現在使われている椅子を調べた。

その結果パイプ椅子やスタッキング椅子が多く使われていることがわかった。

どちらも大人向けに作られている椅子なので子供の手足に合わせた大きさや安全性になっていない。

また可動部に指を挟む事故や落として足を挟む事故などもあることが調査に行った小学校の先生の話からわかった。

次に、市場調査を安全性・開閉・重量の三つの視点から調べた。

その結果、安全性は可動部がないスタッキング椅子、開閉はそれにより収納が容易に行える折畳み椅子、重量はアルミや桐などを使用した椅子が向いている事がわかった。

3. コンセプトの立案

「小学生が使いやすく安全な椅子を作る」

4. デザイン展開

はじめにコンセプトに含まれる使いやすい椅子としての要素を考え出来るだけ可動部を減らすことにした。

調査からスタッキング椅子にすることで解決できるのだが、今の小学校にはスタッキング椅子を収納出来るだけのスペースがないことから折畳み式を軸にデザインを展開を行なった。

折畳み式にすることで可動部が必然的に出来てしまうので、どのような位置に可動部を作るか、可動部をどのように減らすかを考え

その結果折畳み椅子とスタッキング椅子の中間の椅子を作っていくことにした。

詳しい内容として、折畳むことで収納を行える大きさまで小さくなり、スタッキング式にすることで可動部を減らすことを実現した。

また、可動部を減らすことでワンアクションで開

閉できるようにし使いやすさを具現化した。

次にカラー・材料検討を行った
安全性に関わる要素として可動部こそ減らせたのだが重量の問題があるので材料によりその問題を解決することにした。

市場調査からアルミ合金などを使用することで軽量化できることはわかっていたのだが

金属を使うことで式典の雰囲気が冷たくなり小学生らしくなくなってしまうことなどから

木材を使用することにした、その中でも桐材などが適していたので材料は桐にし安全性を高めた。

カラーは式典会場になる体育館に合わせて茶色を基本カラーにし座面に彩度の高い色を配色することにした、これにより小学生らしい雰囲気をカラーで表すことが出来た。

5. 完成図



6. 結論

実際に小学生の子供がいる家庭に行き検証を行った結果、小学生向けにしては大きいのもう少し小さくしてほしい。物としては可愛らしいと思うなどの意見を頂けた。

今回の結果から、より小学生に使いやすい大きさや形を検討していく必要性を感じた。

7. 参考文献

「JES 日本人間工学会トップページ」
<http://www.ergonomics.jp/>